

シンポジウム「南海トラフ巨大地震の予測に向けた観測と研究」開催報告

主催：東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

共催：日本地震学会

日時：平成 28 年 9 月 30 日（金）

場所：東京大学 武田先端知ビル内・武田ホール

参加者数： 188 名

内容：別紙プログラム参照

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/H26->

[30/H28/symposium_nankai20160930.html](http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/YOTIKYO/H26-30/H28/symposium_nankai20160930.html)

南海トラフ巨大地震の予測に向けた観測と研究

開催日 平成28年9月30日(金)

開催場所 東京大学武田先端知ビル内・武田ホール(東京都文京区弥生 2-11-16)

主催 東京大学地震研究所地震・火山噴火予知研究協議会

共催 日本地震学会

南海トラフでは将来巨大地震が発生することが予測されているが、その中短期予測が可能になれば、巨大地震による災害の軽減に有効と考えられる。現時点で、南海トラフ巨大地震の予測はどのくらい現実的であるのか、実現するためにはどのような観測や研究が必要か、また、予測を災害軽減に役立てるにはどうすればよいか、等について最新の研究成果に基づき議論する。

司会 谷岡 勇市郎(北海道大学)

10:20 10:30 平原 和朗(京都大学大学院理学研究科)
開会の挨拶

10:30 10:45 山岡 耕春(名古屋大学大学院環境学研究科)
南海トラフ地震予測可能性調査部会報告について

10:45 11:05 矢来 博司(国土地理院)
GEONETによる南海トラフ沿いの断層滑りの把握能力

11:05 11:20 齊藤 竜彦・福山 英一・武村 俊介(防災科学技術研究所)
動力学的断層破壊シナリオによる地震波・津波記録の理論合成

11:20 11:35 榎本 祐嗣(信大)・日置 幸介(北大)・杉浦 繁貴・奥村 暢朗(コンボン研究所)
プレート境界地震準備過程のモデリングとリアルタイム先行現象観測のための設計科学

11:35 11:50 山中 佳子(名古屋大学大学院環境学研究科)
昭和東南海地震のアスペリティが見えた?

11:50 12:05 趙 大鵬(東北大学)
スラブ境界域の構造不均質と南海トラフの巨大地震

12:05 13:35 昼休み, ポスター発表

司会 澁谷 拓郎(京都大学防災研究所)

13:35 13:55 央倉 正展(産業技術総合研究所)
古地震からみた南海トラフ巨大地震の多様性と規模

13:55 14:15 中谷 正生(東京大学地震研究所)
巨大地震の前兆現象

14:15 14:35 小原 一成・加藤 愛太郎(東京大学地震研究所)
スロー地震の巨大地震との関連性

14:35 14:55 石川直史(海上保安庁)
GPS-A海底地殻変動観測から推定される南海トラフのすべり欠損分布

14:55 15:15 松本 則夫(産業技術総合研究所)
南海トラフ地震予測のための地下水等総合観測施設

15:15 15:30 ロバート・ゲラー(東京大学大学院理学系研究科)
「南海トラフ巨大地震」とは? 「予測」とは?

15:30 15:45 休憩

司会 加藤 尚之(東京大学地震研究所)

- 15:45 16:05 西村 卓也(京都大学防災研究所)
測地観測による地震先行現象の検知について
- 16:05 16:20 加藤 愛太郎(東京大学地震研究所)
チリ沖巨大地震発生前の固着の剥がれ方の多様性
- 16:20 16:40 前田 憲二・弘瀬 冬樹・小林 昭夫(気象研究所)
東北沖地震(M9.0)前に観測された前兆的な地震活動・地殻変動
—南海トラフ大地震前に期待される前兆的現象—
- 16:40 17:00 井出 哲(東京大学大学院理学系研究科)
地震の階層的空間固有性と確率予測
- 17:00 17:20 堀 高峰(海洋研究開発機構)
プレート境界での固着・すべり状態のモニタリングと推移予測にもとづく
南海トラフ沿い巨大地震の発生予測の現状と課題
- 17:20 17:40 田中 淳(東京大学大学院情報学環)
意思決定プロセスから見た災害情報の方向性
- 17:40 18:00 森本 輝(内閣府)
南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループについて
- 18:00 山岡 耕春(名古屋大学大学院環境学研究科)
閉会の挨拶

ポスター発表(ボードのサイズは縦180cm x 横90cmです)

利根川 貴志・荒木 英一郎・木村 俊測(海洋研究開発機構)・中村 武史(防災科学技術研究所)・中野 優(海洋研究開発機構)
南海トラフ付加体先端部におけるS波速度構造の時間変化

山下 幹也・仲西 理子・三浦 誠一・小平 秀一(海洋研究開発機構)・金田 義行(香川大学)
高精度イメージングから得られた南海トラフ軸周辺の変形構造

楠城 一嘉(静岡県立大学)・吉田 明夫(静岡大学)
来るべく南海トラフ地震で期待される“前兆現象”

金 幸隆(大阪市立大学)
南海トラフ東部の海底変位地形:数値水深モデル(50 mメッシュ・150 mメッシュ)から推定された
石廊崎断層と下田沖断層帯と精度の限界

金 幸隆(大阪市立大学)・萬年 一剛(温泉地学研究所)
堆積性海岸低地帯の微地形形成プロセス:三浦半島南部の上下地殻変動・残留隆起量の履歴解明

中川 要之助(応用自然史研究室「人と大地」)
豊中 — 柏原断層と南海地震

猿渡 隆夫
予知例としての2016.4.1三重県南東沖地震M6.5

末 芳樹
2011年東北地方太平洋沖地震で観測された本震に先行する陸側プレートの歪限界点の到達